

2017(平成29)年度 長野県山岳総合センター 安全登山講座
「長野県高等学校登山研修会」 講師打ち合わせ資料

1 研修のねらい

高等学校の山岳部・登山部・アウトドアクラブなど、野外活動を主目的とする部・クラブに所属する生徒およびその顧問・指導者が、雪上での歩行技術(夏山の雪渓通過技術)やテントでの生活技術など、登山の基礎的な知識や技術を習得する。

2 研修内容

○主任講師 職員① ○安全管理 職員①(職員②)

レベルⅠ・・・初めてアイゼン、ピッケルを使用するレベル
雪上歩行中心の講習内容

レベルⅡ・・・アイゼン、ピッケルを使用するのは1～2回レベル
雪上歩行と滑落停止等雪上技術中心の講習内容

レベルⅢ・・・アイゼンを着けて、ある程度の斜面を登降できるレベル
滑落停止等の雪上技術と初歩のロープワーク中心の講習内容

(1)実技研修

【1日目】

①装備貸し出し、入山準備、パッキング、アイゼン合わせ *学校顧問を中心に

②扇沢～大沢小屋テント場

ア 雪上歩行(扇沢～大沢小屋間) ※夏道を使用

・大沢小屋まではとにかく安全で歩きやすいルートを使って入山する。(扇沢からは班ごと)

イ テント設営

・適地の選択、整地、設営、荷物整理

*必要に応じ、講師がアドバイス等する

ウ 雪上技術訓練① *班ごと ※場所は赤沢なども状態を見て使用する。

・キックステップでの登降(直・斜・トラバース)、ピッケルワーク、アイゼンの有効性(滑落停止技術等)。

エ ロープワーク(フィックス設置、生徒は通過) 班ごとに設置、通過練習

・フィックスロープの張り方と通過の仕方(特に講師(顧問)の張ったフィックスを確実に通過できること)。

オ 事故防止等

・地図の読み方とルート設定、休憩場所、落石事故の予想と回避方法、雪崩の予見と安全策。

③生活技術

幕営 炊事と火器の使用、テント内の生活技術 顧問の指導による

【2日目】

① 雪上技術訓練Ⅱ(針ノ木本谷、大沢、峠方面)

・峠方面または大沢上部に向かうが、前日の状況をみて無理はしない、適宜フィックス利用。

〈悪天候時は下部で昨日の続き:雪上歩行、フィックスの張り方等〉

貸し出し装備 ①ハーネス(顧問のみ) ②スリング1人2本 ③カラビナ2枚(内環付1)

④ヘルメット ⑤ピッケル ⑥アイゼン

各班講師確認装備 ①ツエルト各班1 ②ロープ(センターから)

講師テント類 ①テント一式(エスパース) ②火器類(職員①)

その他 ①薬品箱(職員①、職員②) ②トランシーバー(5台+遭対無線1台)

※下山は夏道を使用

②扇沢に着いたら、装備返却・アンケート記入～閉講式。

3 研修当日の安全配慮

(1) 現地調査より(6月1日と8日に実施) 雪の量は多め 軟雪状態 落石注意

(2) 予想される事故と対処

ア 行動中、訓練中

- ・雪崩……研修場所の選定 大沢小屋周辺、本谷
- ・雪溪の踏み抜き……危険箇所(雪溪の薄い部分、堰堤や樹木周辺)を指示する。
特に夏道の途中で渉る雪溪に注意。
- ・落石……訓練中講師は上方を視認する。転石への衝突にも注意(ヘルメットの着用)。
- ・ピッケル……正しい使用方法を常に確認(ピッケルのピック刺し等 ガムテープによる保護)
- ・滑落……班の技能に応じた訓練斜面を設定するとともに、滑落を未然に防ぎ初期で止める。
無理をしない。
- ・ロープ操作……火傷防止の手袋を着用する。ロープに体を巻き込まれないよう処理を確実に
する。

イ テント生活……テントの設営場所は落石や雪崩の危険が無い地点を優先する。炊事中の火傷防止についてしっかり説明する(ボンベ交換[基本はテント外で]、鍋の転倒注意)。
・大沢小屋のトイレ使用可能。

4 非常事態の発生に備えて

- (1) 警察等関係機関に研修計画を届けるとともに、遭対無線(遭対150)・講師全員携帯電話を持参して連絡手段を確保し、不測の事態に備える。班毎の連絡には、講師がトランシーバーを持ち訓練中の非常時に備える。
- (2) 事故発生時は次のような分担で対処し、遭難者の救助とともに二次遭難の防止につとめる。
※全体指揮(職員①) ※救護(講師①・講師②・講師③) ※講習生掌握(職員②)
※連絡(職員②)

山岳総合センター 22-2773	職員①携帯000-0000-0000	職員②携帯000-0000-0000
職員③携帯000-0000-0000	職員④携帯000-0000-0000	職員⑤携帯000-0000-0000
職員⑥携帯000-0000-0000		
講師①携帯000-0000-0000	講師②携帯000-0000-0000	講師③携帯000-0000-0000
大町警察署 22-0110	大町病院 22-041	名鉄タクシー23-2323

5 その他

- ・無線利用。行動中は常時開局 NO, 1~NO, 5(各講師・職員)および遭対無線1台(職員①)。
- ・テント場は大沢小屋の周辺にまとまって。
- ・水場は、小屋の横から少量流出しているものを使用。
- ・テント場にゴミを残さないこと。
- ・講師、職員テント 5人(エスパース) 行動食は各自。
- ・講師反省会は閉講式後。